

天を測る 気を読む

— 経営者のための天候リスク対策 —

第2回

90日前・180日前の気象が
今日の気象のヒントになる

木村 図 きむら・はかる

株式会社A・パートナー代表取締役。
リンゴの生産・販売、リンゴ園地受
託作業、GAPコンサルティング等
を手がける。仕事のための天候予
測を研究するグループ津軽錬成会
メンバー。



天候予測は、自分の頭を使って自分で行なうものです。その予測の手掛かりとして、私はまず「寒だめし」という方法で予測することを仲間と一緒に始めたわけですが、自分の天候予測の精度を上げる手掛かりが他にもないだろうかと思っていました。

今日の天候の予兆は 90日前に示されている

そうした中で出会ったものの一つが、新潟県の酒井興喜夫さんという方が提唱していたカマキリによる積雪の予測というものです。

酒井さんは「カマキリが高いところに卵を産むと大雪」という伝承に着想を得て、カマキリは雪に埋もれない高さに卵を産み付けるのだと考え、長年カマキリの産卵位置と積雪の関係調べていました。

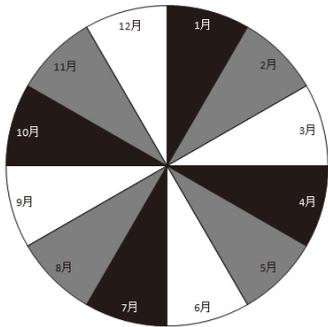
そして、天候は地中から発せられる微かな振動（地中音）の影響を受けていて、カマキリはその地中音を感知しているのだろうと考えたのです。ところで酒井さんは電気通信工事の専門家です。そこで、この地中音を測定する機器を作ってデータを取得続けた結果、現在の天候は、90日前の地中音の波形から予知が可能であると説を発表したのです。その詳細については、農文協から『カ

マキリは大雪を知っていた——大地からの「天気信号」を聴く』という本が出ています。

ただし、その後、カマキリが積雪を予測しているとの説は弘前大学の安藤喜一名誉教授によって否定されました。現実の自然界では、同じ年でもカマキリが卵を産み付ける高さはまちまちで、雪に埋もれて越冬する卵も多いというのです。

ただ私は、酒井さんの研究で示された、現在の天候はその90日前に予知するための材料が示されているという部分に興味を持ちました。それで、私は地中音を測る機器は持っていませんから、実際の気象データのグラフを見比べたのです。すると、とても面白いことに気付きました。ある月の気象データのグラフは、その3カ月前のグラフと似ているところがあるのです。

今日は急に気温が上がったという日に、その90日前のデータを確かめると、やはり気温が急が上がった日だったということがある。3カ月前は季節が違いますから、気温の上昇・下降の傾向は違い、全く同じというわけではありません。しかし、気温、湿度、降水、風の状態などで急な変化や変わった天候などがあれば、90日前に見つけることができるものです。さらに、180日前の気象は90



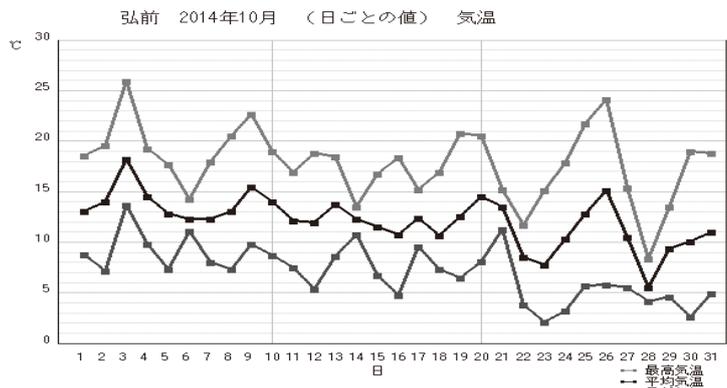
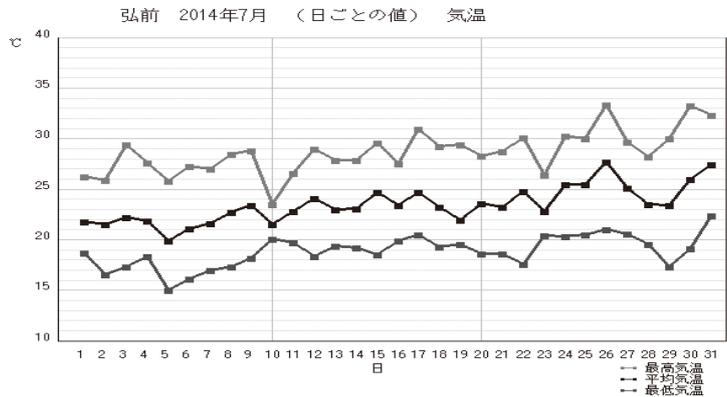
90日 = 3カ月前の気象データを参照するのが「直角法」、
180日 = 6カ月前を参照するのが「真向かい法」

予測しようとするのは 年間の作業を考える基盤

前回も書きましたが、こういう予

日前の気象と似ているということにもなるので、この2つを突き合わせると、これから起こる変化の特徴をつかみやすくなります。

私は、このように90日前と180日前のデータから予測を立てる方法を「直角法」「真向かい法」と名付け、寒だめしからの予測と合わせて、天候予測の手掛かりにしています。



今年7月と10月の弘前市の気温推移（気象庁）。10月6日・11日の気温の下降と10月26日の気温の上昇は、およそ90前の7月5日・10日・26日に兆候があったと読み取ることができる

日前の気象と似ているということにもなるので、この2つを突き合わせると、これから起こる変化の特徴をつかみやすくなります。

私は、このように90日前と180日前のデータから予測を立てる方法を「直角法」「真向かい法」と名付け、寒だめしからの予測と合わせて、天候予測の手掛かりにしています。

前回は、雷が鳴って雨が降るときが必ずあります。特に、午前中は天気は8月の天気と似たような感じが、西のほうから雷が鳴り出して、雨が降り出したと思ったら大粒の雨で、そのあとまたパツと明るくなる——そういう日があります。私は直角法によって、そういう天気が3カ月後の初雪の信号だととらえています。つまり、8月15日にそういう空模様であれば、今年の初雪は11月15日頃だなど見当を付けて、じゃあそれまで

測というのは、100%当たるものではないです。だからこそ、なんとか予測を現実にならざるやろうと考えるし、外れれば今度はこういう風に考えたらどうだろうと思案する。それで、簡単には当たらないからこそ、逆に面白いのです。

昨年は昨年より早い11月上旬、5日頃に初雪となりました。これがけっこう降って、積雪が30cmぐらいいなくなり、リンゴの園地で運搬車が歩けなくなるほどになりました。そのため3日も4日も休まざるを得なかったのです。これを予測できなかったことを、私は悔やしく思いました。

というのも、初雪がその時期になるという予測につながるものが3カ月前の8月上旬にあったのです。

直角法でいけば、11月の天気は8月の天気と参考になります。その8月には、雷が鳴って雨が降るときが必ずあります。特に、午前中は天気は8月の天気と似たような感じが、西のほうから雷が鳴り出して、雨が降り出したと思ったら大粒の雨で、そのあとまたパツと明るくなる——そういう日があります。私は直角法によって、そういう天気が3カ月後の初雪の信号だととらえています。つまり、8月15日にそういう空模様であれば、今年の初雪は11月15日頃だなど見当を付けて、じゃあそれまで

に人を入れてでも収穫を終えないといけないなど準備をするようにします。

昨年は、そうした天候が8月5日にありました。しかし、私はそのとき、「いくら何でも5日では早すぎるだろう」と考えました。するとその12〜13日後に、また同様の天候があったので、初雪のサインはこっちだろうと考えたのです。

ところが、実際は8月5日の荒れ模様こそが、11月5日の初雪のサインだったわけですね。そしてその12〜13日後にも雪は降りました。素直に5日が初雪と予測して警戒していれば、その前に収穫を終えることができていたはずで、全く残念なことでした。何かのサインだと感じたら、自分の都合のいいように解釈したり、楽観したりすることのないようにしなければいけません。

そして、このように勘を働かせることが、1年の作業の基盤の一つになります。それこそが、天候を予測しようとするものの価値なのです。

今回は、古代中国から伝わる五運六気の考え方に基づいた予測法についてご紹介しましょう。ユニークなので戸惑われるかも知れませんが、人が自然の中で暮らしていることを深く意識させてくれる考え方です。

に人を入れてでも収穫を終えないといけないなど準備をするようにします。

昨年は、そうした天候が8月5日にありました。しかし、私はそのとき、「いくら何でも5日では早すぎるだろう」と考えました。するとその12〜13日後に、また同様の天候があったので、初雪のサインはこっちだろうと考えたのです。

ところが、実際は8月5日の荒れ模様こそが、11月5日の初雪のサインだったわけですね。そしてその12〜13日後にも雪は降りました。素直に5日が初雪と予測して警戒していれば、その前に収穫を終えることができていたはずで、全く残念なことでした。何かのサインだと感じたら、自分の都合のいいように解釈したり、楽観したりすることのないようにしなければいけません。

そして、このように勘を働かせることが、1年の作業の基盤の一つになります。それこそが、天候を予測しようとするものの価値なのです。

今回は、古代中国から伝わる五運六気の考え方に基づいた予測法についてご紹介しましょう。ユニークなので戸惑われるかも知れませんが、人が自然の中で暮らしていることを深く意識させてくれる考え方です。